

# 2025年度 METI海外貿易会議（航空機）報告

## その1

2025年度のMETI海外貿易会議（航空機）を2025年9月に実施した。その報告を2回に分けておこなう。1回目は、ピラタス社（スイス）、ATLA社（イタリア・トリノ）、Avio Aero社（イタリア・トリノ）の3か所についての報告をおこなう。なお、2回目はレオナルド社（イタリア・ミラノ、トリノ）訪問について報告をおこなう予定である。

### 1. 会議概要

(1) 開催地 イタリア共和国、スイス連邦

### (2) 開催概要

レオナルド社の航空機及びヘリコプター事業部門を訪問し、OEMの事業運営につき議論をおこなう。あわせて、欧州市場における有力企業であるピラタス社とAvio Aero社を訪問し、サプライチェーンを含めた議論を行う。このような観点から、以下の観察をおこなう。

### (3) 日程

日程	行程
9月 7日	日本発～ミラノ（イタリア）へ
9月 8日	午前 レオナルド社（ヘリコプター事業部門 本部／工場）視察 午後 レオナルド社（ヘリコプター事業部門 本部／工場）視察
9月 9日	午前 ミラノからスイスへ移動 午後 ピラタス社訪問
9月 10日	午前 ミラノからトリノへ移動 午後 ATLA社訪問
9月 11日	午前 Avio Aero社訪問 午後 レオナルド社訪問（航空機事業部門 本部／工場）訪問
9月12日－13日	トリノよりミュンヘン経由羽田空港へ帰国

### (4) 主な参加者

1) 団長：（一社）日本航空宇宙工業会  
国際委員長 斎藤 義弘 氏

（株式会社SUBARU 執行役員  
航空宇宙カンパニープレジデント）

2) 経済産業省：製造産業局 航空機武器  
産業課長 木村 拓也 氏

3) 産業界：（一社）日本航空宇宙工業会の  
会員企業、関連団体

なお、訪問の調整に際しては、在日イタリア大使館及び在日スイス大使館の支援をいただいた。

## 2. ピラタス社訪問

訪問日時 September 9, 2025 (14:00- )

訪問先名称 Pilatus Aircraft Ltd.



### (同社概要)

1939年創業、現在までに4,400機を納入、100%スイス資本。

	<2023>	<2024>
売上	1,478 m CHF (約2,660億円)	1,633 m CHF (約2,950億円)
受注残	2,325 m CHF (約4,185億円)	2,918 m CHF (約5,250億円)
EBIT	240 m CHF (約430億円)	243 m CHF (約 435億円)
従業員数	2,848人	3,326人
R&D	59 m CHF (約105億円)	83 m CHF (約 150億円)

### (納入数)

PC-12	101機	94機 + 2 Leasing
PC-24	47機	51機
PC-21	0機	6機
(合計)	148機	151機 + 2 Leasing

### (訪問先の主な面談者)

- Mr. Karsten WACHHOLZ, VP Supply Chain
- Mr. Steven ROCHE, Director Corporate Procurement
- Mr. David BRULHART, Team Leader Procurement
- ほか

### (現地でのスケジュール)

14:00 – 14:10	Arrive at PILATUS (Stans)
14:10 – 14:25	Greetings
14:30 – 15:15	Presentation by PILATUS and METI Delegation Introduction
15:15 – 16:30	Factory Tour
16:30 – 17:00	Closing (Q&A, Group Phot)
17:00	Leave from the PILATUS

### Global Sales Our sites and our network



ピラタス社の世界拠点について（同社プレゼンテーション資料より）



ピラタス社の木材で作られた組み立て工場（同社プレゼンテーション資料より）

訪問は、同社のプレゼンテーション、工場視察、質疑、ネットワーキングの順番で行われた。まずは、同社のプレゼンテーションを紹介する。

同社はスイスの中心に位置し、1939年の創業で非上場（private）企業である。同社のスイス内の売上は5%であり、輸出を中心とした企業である。米国のコロラドに拠点を設けており、アジア・パシフィック地域では豪州に大きな拠点がある。現在は、3,326人の陣容で、その国籍は58か国になる。

同社の製品ラインナップは、Business Aircraft (PC-12/Turboprop, PC-21/Jet engine) と Training Aircraft (PC-21, PC-7 MKX) である。

Business Aircraftの特徴は、unpaved runway（非整地滑走路）での離着陸が可能なこと、Single Pilotでの運用が可能なことである。Training Aircraftはmilitaryパイロット向けの練習機であり、各国（豪州、UAEなど）に向けてトレーニングシステムを提供している。

工場視察は、組み立て工場や小型金属部品の加工工場などを視察した。木材で作られた工場では、機種ごとにブロック分けされて作業が進められていた。部品加工工場は最新のMCも配置されていたが、穴繰り用の工作機械などは長年使っているものようであった。なお、同社では今後は複合材の導入を積極的に進めていく計画であり、同社の敷地内



ピラタス社幹部との集合写真

に複合材専用の工場を建設中であった。最終組み立て工場では、各種センサー類の機能試験も行っていた。滑走路も隣接しており、フライトテストも実施可能とのことで、視察中もPC-21がエンジン出力調整の後に滑走路へ向かっていった。

工場視察後の質疑では、以下のようなやりとりがあった。将来構想については、ターボプロップとジェットの両方で進めていくとのこと。米国のプラット&ホイットニー社とのコラボレーションでエンジンメンテナンス分野も進めていきたいとのこと。サプライ

チェーンマネジメントについては、サプライヤーとの関係構築が重要である。Interculture Managementであり、Supplier Risk Managementである。また、日本企業のValueへの期待が示され、今回の訪問を日本企業が同社のサプライチェーンへ参加する機会になればとのコメントもあった。FAAのType Certification（型式認証）の取得の取り組みについては、Trickyなところがあるとのコメントであった。

質疑の後は、ネットワーキングの時間となり、同社幹部と参加者との間で名刺交換など盛んな交流が行われた。

### 3. ATLA社訪問

訪問日時 September 10, 2025 (10 : 00 - )

訪問先名称 ATLA S.R.L

#### (同社概要)

1978年創業、2010年より三菱重工業と提携  
(パワータービン部門)

特殊工程を含む翼部品の製造及び修理を実施。IAQGのメンバーとして品質管理にも積極的に取り組む。日伊ビジネスグループのメンバーでもある。

#### (訪問先の主な面談者)

Mr. Luca GANDINI, Chief Executive Officer

Mr. Riccardo MANTOAN, Aerospace Project  
Technical Manager

Ms. Diana GIORGINI, Aerospace & Defense  
Business Development Manager

#### (現地でのスケジュール)

10 : 00 Arrive at ATLA

10 : 15 Greetings (Welcome  
Refreshments)



10 : 30 – 11 : 30 ATLA Introduction and  
M E T I D e l e g a t i o n  
Introduction

12 : 15 – 12 : 30 Wrap up and Final  
discussion on collaborative  
projects to be jointly  
developed

ATLA meetings in Japan  
Q4 2025/Q1 2026  
Additional follow on,  
Group photo shooting

End of the visit

まずは、同社の所在地であるPiemonte州の紹介がビデオで行われた。同州はイタリアにおける航空機産業の拠点の一つであり、行政や学術からの積極的な支援も行われているとのことであった。

次に、同社の説明が行われた。同社は1978



ATLA社の工場全景（同社プレゼンテーション資料より）

年に現CEOの父親であるEttore GANDINI氏により設立され、現在では15,000m<sup>2</sup>以上の敷地面積に100名以上の従業員が働いている。

なお、Ettore GANDINI氏は同社の子会社（TAG社）の社長を務めている。TAG社も10,000m<sup>2</sup>以上の敷地に75人以上の従業員が働いている。

同社（ATLA社）は、1988年にSULZER SURFACE TECHNOLOGY社とFIAT AVIO社と提携した。SULZER SURFACE TECHNOLOGY社との提携は1998年に終了した。2006年には三菱重工業と産業用ガスターインの修理で合弁会社（JV）を設立した。2010年にFIAT AVIOとの提携が終了し、航空機分野も一時停止することとなった。また同年に三菱重工業とパートナーシップを結び認定修理工場となった。2018年に航空機分野へ再参入をおこなった。2024年に工場を新設した。同年には日伊ビジネスグループ（IJBG）のメンバーとなった。

次に同社の品質管理や製造の能力について説明があった。品質に関しては、NADCAPを取得しており、AS/EN9100（Production of aircraft engine parts）やAS/EN9110（Maintenance,

repair and overhaul of aircraft engine parts）も取得しているとのことであった。ISOについては、9001、50001、45001、14001を持っていいること。IAQG（International Aerospace Quality Group）のメンバー（affiliate member）であるとのこと。

製造能力については、機械加工のほかに特殊工程として、非破壊検査、Tig & laser溶接、EDM & laser加工、熱処理、Activated Diffuser Brazing, Shop Peening等の能力を有するとのことであった。

プレゼンテーションの最後に、航空機分野の他社とのR&Dに関するパートナーシップについて説明があった。同社はP&W、GE Aerospace、Rolls Royceとの関係を有しているとのこと。GE Aerospaceによる、コーティング、Additive Manufacturing、先端材料のイノベーションに対するネットワーク（European Technology Development Clusters (ETDCs)）に参加している。欧州の第六世代向けのNEUMANN Projectにも関わり、GCAPについてもAvio Aero経由となるが関係しているとのこと。

今後は宇宙分野についても興味を持っており、ESA（欧州宇宙委員会）やASI（イタリア宇宙庁）のプログラムについても話し合い

に参加しているとのこと。

まとめとして同社CEOのLuca GANDINI氏より、同社は三菱重工業との長年にわたるパートナーシップを続けてきており、日伊ビジネスグループ（IJBG）のメンバーともなった。今回の機会にますます日本との関係を深めていきたいとのコメントがあった。

その後、二班に分かれて工場観察をおこなった。工場では産業用ガスタービンの部品が多くみられ、プレゼンテーションにあった設備などが盛んに稼働していた。集合写真は製造場内で撮影されたが、工場内はきれいに

整理されており、安全への配慮も十分に行われていた。

工場観察の後に、質疑をおこなった。売上の具体的な数値についての言及はなかったが、航空機分野が全体に占める割合は20%以下であるとのこと。ファミリービジネスとして経営にあたって注意していることについては、従業員や地域のことに対する配慮のことや他社との提携はあっても自らで経営を行っていくとの点は自負をもって取り組んでいくことなどのコメント（continue to work as Gandini family）があった。



ATLA社CEOなどを囲んでの集合写真（同社提供）



（ATLA創業家、同社ホームページより）

#### 4. Avio Aero社訪問

訪問日時 September 11, 2025 (9:00-)  
訪問先名称 Avio Aero (A GE Aerospace Business)



##### (同社概要)

1908年 FIATの一部門として生産開始  
1950年 FIAT Aviazioneとして生産を再開  
1989年 FIAT AVIOに社名を変更  
2003年 FIATグループより独立し、社名をAVIOとする  
2013年 GEによる買収が完了し、Avio Aeroとなる

従業員は約5,900名。

民間と防衛用のプロパルジョンシステムの設計や生産を実施。

生産拠点は、Rivalta di Torino (TO)、Borgaretto (TO)、Brindisi (BR)、Cameri (NO)、Pomigliano d'Arco (NA)、Sangone (TO)に加えて海外工場としてPrague (Czech Republic) と Bielsko-Biala (Poland) がある。

##### (訪問先カウンターパート、主な面談者)

Mr. Riccardo PROCACCI, CEO (DSEI UKのために不在)

Mr. Vito ALFARANO, General Supply Chain GM (同上)

Ms. Barbara RAMAGLIA, Communication & Public Affairs Leader (同上)

Mr. Fabio Manfredi, Program Director New Product Introduction

Mr. Fabrizio Torta, Global Supply Chain, Transmission Chief Manufacturing Engineer

##### (現地でのスケジュール)

9:00	Arrive at Avio Aero
9:00 - 9:15	Greetings
9:15 - 10:00	Presentation by Avio Aero
10:00 - 10:45	Factory Tour
10:45 - 11:00	Q&A, Discussion
11:00	Leave from



Avio Aeroのメンバーとの集合写真（同社提供）

訪問先のAvio Aero社は1908年に創設され、FIAT社の関連会社であったが、2013年にGE社へ売却され、現在に至っている。

扱っている製品は、GE社のエンジン部品だけではなく、P&W社やRolls Royce社のエンジン部品の製造もおこなっている。

2024年の売上は、1.98B米ドル（約2,950億円）であり、75%が民間航空向けで、25%が防衛向けである。GE社向けの製品が占める割合は49%で、他の会社向けが51%である。

約6,000人の陣容である。イタリア国内工場だけでなく、ポーランドやチェコ共和国にある製造拠点における人員を含めたものである。R&D（研究開発）については、187.4M米ドル（約280億円）を投じている。

今回訪問したRivalta工場は2,321人の陣容で、30%がエンジニアで70%がメカニックである。年間約4,000台のGea Boxを作る能力が

ある。ヘリコプター向けのTransmissionの生産も手掛けており、韓国のKAI社（Korea Aerospace Industries：韓国航空宇宙産業）向けのプログラムが始まったところである。

概略の説明を受けた後に、工場視察をおこなった。新しい工作機械（DMG MORI製5軸複合加工機など）を積極的に導入するなど効率化に努めている。工作機械から得られる計測データーは各々の機械より集められ、一括でモニタリングしている。毎日午前11時に工場の主要メンバーがRivalta Plant Control Centerに集合しミーティング（KAIZENN活動）を行っているとのことであった。

なお、私たちの訪問については、Avio Aeroのソーシャルメディアにも掲載された。

\* 本訪問にあたっては、GE Aerospace日本代表の岡野氏にご尽力いただきました。

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 国際部部長 羽中田 実〕